
フットボール綱領 (THE FOOTBALL CODE)

伝統的に、フットボールは教育活動の重要な一環を担っている。フットボールは激しく、力に満ちた、身体をぶつけ合うスポーツである。それゆえ、プレーヤー、コーチ、その他の試合関係者に対しては、最高のスポーツマンシップと行動が要求される。不正な戦術、スポーツマンらしからぬ行為、故意に相手を傷つけることは絶対に許されない。

- a. フットボール綱領は、不可欠なものであり、注意深く読まれ、守られなければならない。
- b. 公式規則の裏をかいたり無視したりすることで益を得ることは、コーチやプレーヤーにとってフットボールにたずさわる資格に欠けるとの烙印を押されることである。

長年にわたって、競技規則委員会は、規則と適切な罰則によって、さまざまな種類の不必要な乱暴な行為、不正な戦術、スポーツマンらしからぬ行為を禁止するため努力してきた。しかし規則のみではこの目的を達成しえない。コーチ、プレーヤー、審判員およびすべての試合関係者の絶えざる最善の努力のみが、このスポーツの高水準の倫理を維持し、人々の期待に沿うものとなるのである。それゆえ、コーチ、プレーヤー、審判員、その他試合の興隆に責任を有する者に対する指針として、競技規則委員会は次の綱領を掲げる。

コーチの倫理

公式規則を侵害することを故意にプレーヤーに教えることは、弁解の余地のない行為である。意図的なホールディングをすること、不正な開始の合図、不正なシフト、負傷を装うこと、インターフェランス、不正なフォワードパス、意図的な乱暴な行為を行うこと等を教えるのは、プレーヤーの人格形成に役立つどころか、むしろ低下につながる。そのような指導は、相手に対してフェアでないのみならず、コーチの管理に委ねられているプレーヤーの道徳の低下をもたらすものであり、教育プログラムとしての場である試合に存在する余地はない。

以下に掲げる行為は、非倫理的な行為である。

- a. 相手を欺く為に試合中に番号を変えること。
- b. フットボールのヘルメットを武器として使用すること。ヘルメットはプレーヤーの保護の為のものである。
- c. 相手プレーヤーに対してターゲティングして強力な接触をすること。プレーヤー、コーチ、そして審判員は、ターゲティングしてヘルメットのクラウンで強力な接触をすることや、ターゲティングして無防備な相手の首や頭部に対して強力な接触をすることの撲滅を目指すしなければならない。
- d. フットボールの試合において、治療の為でない薬を使用すること。これは、アマチュア競技者の目標や目的と一致しておらず、禁止されている。

- e. 開始の合図を不正に行うことによる、“ピーティング ザ ボール”。これは、まさに相手から利益を意図的に盗むことである。正しい開始の合図が必要であり、審判員に見つからないだろうと思い、ボールがプレーに移される何分の1秒前にチームをスタートさせることを目的とする合図は、不正である。これは短距離選手が、ピストルを撃つ10分の1秒前に、特別な合図をもらうことをスターターと秘密に約束するのと同じことである。
- f. 相手のオフサイドを誘発する目的でプレーの開始を装うようなシフトや他の公正でない戦術を使用すること。これは、不当に利益を得ようとする故意の試みとみなされる。
- g. いかなる理由であれ、故意に負傷を装うこと。負傷したプレーヤーは公式規則に従い充分保護されるべきである。しかし、故意に負傷を装うことは、不正直でスポーツマンらしくない行為であり、公式規則の精神に反することである。そのような作戦は、スポーツマンシップを尊ぶ我々の間では認めることができない行為である。

相手への話しかけ

品の無い、侮辱的な、口汚い、つまらない言葉、あるいは報復行動を挑発するような言動や相手を打ちのめしたりする意図的な方法で相手に話しかけることは、不正である。コーチはこのような行為に対し頻繁に協議し、これを規制する審判員の行動のすべてを支持するように強く要請される。

審判員への話しかけ

審判員が罰則を科し、あるいは決定を下すのは、審判員が自分の見たことに対する単なる任務の遂行をしているのである。審判員はフットボールの試合の本来の姿を維持するためにフィールドにいるものであり、その決定は最終的なもので、プレーヤーやコーチは受諾すべきである。

コーチは、プレーヤーや報道機関に対し、公式、非公式を問わず審判員を非難してはならない。また、ベンチ内にいる誰かが試合の最中に審判員に対して悪口を吐いたり、またプレーヤーや観客が審判員に反感を持つような扇動的な行為を行うことを許したり、コーチ自身が行うことは、試合の規則の侵害であり、コーチとして相応しくない行為である。

ホールディング

手や腕を不正に使用することは不正なプレーであり、正しい技術の発展を阻害するものであって試合には全く不要のものである。試合の目標は、不正に相手をつかむことをせずに正しい戦術、技術、スピードによってボールを前進させることである。すべてのコーチとプレーヤーは、オフェンスとディフェンスの正しい手の使用に関する規則を完全に理解しなければならない。ホールディングは最も多い反則であり、罰則の厳しさを強調することは重要なことである。

スポーツマンシップ

故意に規則を侵害したプレーヤーは、ひきょうなプレー、スポーツマンらしからぬ行為の罪を犯したものであり、罰則の有無にかかわらず、試合の名声を高める義務を忘れ、フットボールの名誉を傷つけたものとして反省すべきである。

2017年
競技規則委員会